

令和 5 年度

「運営に関する計画」

大阪市立緑中学校
令和 5 年 4 月

大阪市立緑中学校 令和5年度 運営に関する計画

【校訓】 至誠・勤勉・協同

【教育方針】

1. 真理と正義を愛し、実行力に富む人間を育成する。
2. 責任を重んじ、勤労を尊び、自主的精神の盛んな人間を育成する。
3. 心身ともに健康で、よく他人と協調して、文化社会を形成する民主的な人間を育成する。

【学校教育目標】

1. 人にやさしい学校・人にやさしい緑中生を育てる。
2. 個性の違いを認め、思いやりのある心を育てる。

【大阪市教育振興基本計画 基本理念】

- (1) 安全・安心な教育の推進
- (2) 未来を切り拓く学力・体力の向上
- (3) 学びを支える教育環境の充実

【学校経営の重点】

1. 「深い学び」および「わかる」授業の質的向上と充実に努める。
→校内研究授業、学力向上支援チーム事業、学力向上プラン（習熟度授業）
カリキュラムマネジメント、総合的読解力育成カリキュラム（R 6）
全国学力・学習状況調査
2. 子ども理解を深め、生徒指導についての共通理解と校内指導体制の確立を図る。
→生徒指導研修会、特別支援教育研修会、学年会、職員会議、主任会
不登校対応、いじめ対策委員会、スクリーニング会議
3. 健康生活の習慣化、安全管理の徹底、食習慣の定着化を図る。
→校内研修会、安全に関するマニュアル、ほけんだより、食育だより
4. 家庭、地域、校区小学校、関係機関との連携を深め、開かれた学校づくりの推進を図る。
→学校協議会、学期末懇談会、進路懇談会、進路説明会、部活動見学会（小中連携）
生徒会児童会交流会（小中連携）、学校HP、学校説明会（学校選択制）
オープンスクール（授業参観）、新入生保護者説明会、中高連携
5. 職員間での情報の共有化を務めるために、報告・連絡・相談を密にする。
→職員会議、企画委員会、学年会、主任会、SKIP連絡掲示板

《めざす学校像》

1. 基礎的・基本的な内容の確実な定着と、生徒の活発な意見をもとにした学習活動を充実し、自ら考え、意欲的に解決する力を育む学校。
→「深い学び」の推進、総合的な学習の時間の充実
2. 豊かな体験的活動を通して、個性を尊重し、互いに支えあう集団の育成を図り、思いやる心や感動する心を育む学校。
→特別活動の充実、1年一泊移住、2年校外学習、3年修学旅行、文化祭
3. 自らの健康や体力に关心をもち、健康でたくましい心身を養い、自律的な生活習慣や態度を育む学校。
→性についての学習、食育、体育大会、全国体力・運動能力調査
4. 今日的課題に対応する教育を充実させ、自らの判断で、生きるべき道を選択し、決定とともに、社会の変化に的確に対応できる力を育む学校。
→キャリア教育、職業講話、人権についての学習、LGBTQ、平和学習、SDGs
国際理解学習
5. 地域・保護者の学校支援体制を構築し、家庭や地域の教育力を活かした教育活動を進めるなかで、地域行事への積極的な参加とともに、地域の一員である自覚と感謝する心を育む学校。
→PTA活動

《めざす生徒像》

1. 学力向上および進路実現のために粘り強く学び続け、努力を惜しまない生徒。
2. 他者とのちがいを尊重し、思いやりのある言動と行動ができる生徒。
3. 自分自身の健康の管理を自分で把握でき、体調が悪いときはどのように対応するべきなのかを判断できる生徒。
4. どんな状況でもしっかり考え、行動できる生徒。
5. 自分を取り巻く人や地域・社会と関わり、たくましく生きていく生徒。

《令和5年度の研究テーマ》

- 生徒の「深い学び」を実現する教育活動の充実

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【安全・安心な教育の推進】

- 本校は「人にやさしい教育を推進し、個性の違いを認め、思いやりの心を育てる」を教育目標に掲げている。学校で子ども一人ひとりが、安心して成長できる学校生活をつくるために、教育相談（各学期初め）やいじめアンケート（毎月）を実施し、生徒教師間の人間関係をつくりながら、情報収集および子ども集団の分析を行っている。情報収集によって認知したいじめについては迅速な解消をはかった。しかしながら、思春期真っ只中の子どもは、自分と他者の違いをもとに、他者を傷つける発言やSNSでトラブル（他者を傷つける言葉や画像の投稿等）を起こしてしまう傾向は続いている。今後も継続して、一人ひとりの価値観や思い、心身の発達などには違いがあること、その違いを尊重することの大しさを理解させ、お互いを大切にする集団の育成を図っていく。いじめや暴力・暴言行為が起こらない、子ども一人ひとりが大事にされる学校づくりに力を入れる必要性がある。併せて、保護者には、「トラブルを通して子どもの成長をどのようにつくるか」を学校と連携していく対応をお願いしている。
- コロナ禍により、令和 2 年度～令和 3 年度は、計画していた集団づくり（人と人が交わり方を学ぶ取り組み）を目的とした行事の多くが縮小または中止となった。校外学習や人権学習や性についての学習など特色ある学習が不十分であった。令和 4 年度は、感染症対策を講じながら、体育大会や修学旅行、文化祭、性についての学習などのすべての行事を予定通りに進めることができた。
- 毎月実施している「いじめアンケート」（令和 3 年度よりスクールライフノートも活用）や各学期はじめの教育相談、相談申告機能などを通じて、認知したいじめについては迅速な解決を図った。また、アンケート等はいじめ防止の意識向上や生徒の不安・悩みを把握するための情報収集にも大きく寄与した。また、SNSでのトラブル（他者を傷つける言葉や画像の投稿等）は増加傾向にある。道徳の授業や日々の教育活動を通して、思いやりの心や個の違いを認め、お互いを大切にする集団の育成を図ることで、いじめや暴言・暴力のない学校づくりに努める必要がある。必要であれば、業者によるスマホ・ケータイ安全教室を開催し、トラブルを未然に防ぐための知識や心構えをもたせたい。
- 年度末の校内調査（生徒）における「学校のきまり・規則を守っている」に対しての肯定的意見は 98%（R3 は 99%）であり、高い水準を維持している。このことは、現在、学校が落ち着いた環境であることを表している。また、年度末の校内調査（生徒）における「授業中、勉強する、雰囲気ができる」とに対する肯定的意見は 80%（R3 は 71%、R2 は 69%、R1 は 54%）であった。コロナ禍で、授業にいくつかの制限があったが、生徒の授業に対する意識は向上している。教科担任は同じ教材でも学級の実態に合わせて、教え方を工夫し、授業実践を行った。すべては教科担任の日々の授業に対する強い思いや惜しみない努力によるものあると確信する。

- 全国的な調査（文部科学省発表）では、小学校から中学校へ就学年数が長くなるほど、不登校の数が増加している。令和3年度の小1と中3を比べると1.3倍である。さらに年度別でみると、中学1年生で令和3年度と令和1年度に比べて1.3倍である。中学校での不登校の要因をみると、約50%が「無気力・不安」によるもので、次に「友人関係をめぐる問題」(11.5%)、「生活リズムの乱れ、あそび、非行」(11.0%)ある。1学期末時点での本校の不登校に分類される生徒数は、1学年10人、2学年18人、3学年32人、在籍比率は3.6%、6.1%、10.7%である。文部科学省の令和3年度の不登校調査（全国）では、小6と中1の不登校生徒の数を比べると1.8倍も増えている。中学校生活は子どもにとって「生きづらい」環境があることがいえる。
- 本校では図書室が不登校生徒の一時的な「安心できる場所」となっている。本校では学校全体で担当スケジュールを組み、多くの教職員が常駐している。また、スクールカウンセラーや子どもサポートネットなどの関係諸機関とも連携をとり、さらには学校スタッフや学校実習の大学生の協力を得て不登校生徒の対応を行っている。学習支援や雑談をとおして、時間をかけて関係をつくり、「無気力・不安」の解消をはかっている。不登校生徒を担任だけで抱え込まない組織的な対応は、教職員の負担軽減につながる。不登校生徒数に劇的な変化は見られないが、不登校をかかる保護者には信頼できるシステムとなっている。
- 複数の教職員が不登校生徒に対応することで、複数の視点で不登校生徒一人ひとりにていねいに向き合うことができる。現在行われている図書室での別室登校は、不登校の生徒だけではなく、不登校の子どもをもつ保護者に大きな安心感を与えていた。保護者の安心感は子どもに余裕をもって向き合う保護者の態度をつくることは言うまでもない。令和3年度から、学習者用端末を利用したオンライン学習で、自宅にいる不登校の生徒とつながる選択肢もつくっている。これらの人的なサポート、ICTを活用した学習サポート等を活かして不登校の生徒とのつながりを切ることなく、登校に向けた積極的な支援を実施し、不登校の生徒の自立をはかる。
- 管理作業部では、通常の業務に加え、衛生面を考慮した水道の蛇口の交換や消毒作業などを積極的に行ってくれた。事務部でも、通常の業務に加え、コロナ禍に係る急な予算対応や積立金の対応、突発的に発生した工事の対応などを迅速に処理してくれた。
- 大阪では、上町断層帯地震や南海トラフ巨大地震等の発生やそれに伴う大規模な災害が懸念されている。災害発生時に「減災」の考え方を踏まえ、危険を回避するために主体的に行動することが求められる。防災・減災教育の計画的・継続的な実施を行い、災害発生時に自ら危険を回避するために、主体的に行動する態度及び安全で安心な社会づくりに貢献する態度の育成を図る。
- 本校は、令和4年度に道徳推進拠点校として研究発表を行った。答えがない道徳的な課題を一人ひとりが自分自身の問題ととらえ、向き合う、「考え、議論する道徳」の授業を充実させるための研究を推進し、事業終了後も実践研究を続けている。
- 本校で毎年2学年において校外学習と職場体験、全学年を対象に芸術鑑賞を実施していた。令和2年度と令和3年度はコロナ禍で校外学習と職場体験、芸術鑑賞は実施できていない。
- 令和4年度は、特別支援学級に在籍する生徒が45人の9学級となり、自立支援及び学習支援の環境整備を行った。令和5年度は1学級減となり8学級である。通常学級にも支援を必要とする生徒が在籍し、全教職員で支援に対する実践力を持つ必要がある。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

《学力向上の取り組み》

- 令和元（2019）年度より全国学力・学習状況調査の出題傾向が大きく変更された。基礎知識を問うA問題と応用力を問うB問題の区別をなくし、双方を一体的に問う形式になった。国語の記述問題を解答するには、「読解力」「思考力」「表現力」が必要とされる。ここで、それぞれの力は、次のような内容で説明される。「読解力」…問題の意味を理解する。「思考力」…自分の考えをもつ。「表現力」…条件に合わせ、自分の考えを正しく伝わるように書く。同調査の平均正答率を上げるには、学習時間を増やし、同調査の直前に過去問演習を訓練すればいいという単純なものではなく、前述した解答に必要な力を、日々の授業や定期テストでどのようにつけていくかを分析し、実践していくことが必要である。
- さて、令和元年度の同調査の国語の平均正答率の全国比は1.03であったが、令和3年度は0.93、令和4年度は1.00であった。本校の国語科での学習指導は「話すこと・聞くこと」の領域を重点的に行い、学校力UPベース事業を活用してきた。同調査を領域別でみると、「話すこと・聞くこと」の全国比は0.6(R1)、-6.4(R3)であった。一方、大阪府チャレンジテスト（3年、国語）の平均正答率の府比をみると、令和3年度は1.03、令和4年度は1.07であることから、本校の「話すこと・聞くこと」の基礎基本の学力はあり、本事業の一定の成果はあると考える。つまり、本校における本事業の一定の成果はありながら、令和元年度からの同調査の新しい出題傾向に対応できていないことが明らかであると結論づける。令和5年度は、基礎基本の定着としての本事業の継続をはかりつつ、同調査の全国比を上回ること、特に本校が重要視している「話すこと・聞くこと」の全国比を上回ることを最大の指標としていきたい。そのためには、1学年から同調査が求める学力を着実に段階的に定着させ、1学年からの定期テストや実力（課題）テストの結果を検証の材料とし、本事業を活用していくことが求められる。同調査の数学の平均正答率の全国比は令和元年度は1.05であったが、令和3年度は0.96、令和4年度は0.97であった。令和4年度のGTECの「読むこと」（リーディング）と「聞くこと」（リスニング）の平均正答率の市比は、それぞれ1.02と0.98（R3は1.06と1.03）であった。
- 全国学力・学習状況調査の無回答率は、令和4年度は5.8%（R3は6.7%）（国語、R4全国4.3%）も本校の課題である。この無回答率は数学も同様の結果である。総合的な学習の時間を中心に課題解決学習を開催し、「話し合い活動」「表現活動」を充実させ、「読解力」「思考力」「表現力」をつける。課題解決学習の取り組みにおいて培った「答えのない課題に対して、粘り強くあきらめない態度」は、「難しい課題にチャレンジする態度」につながる。このことは今後、無回答率の低さに現れることが期待される。
- 今年度も引き続き、新学習指導要領が求める学び「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」への質的変換を少しずつ取り入れていく。例えば「アクティブラーニング」（一方的な講義形式→学習者の能動的な学習）、「課題解決型学習」の取り組みのこと。コロナ禍前に実施されていた学年別の校内研究授業を計画し、教員一人ひとりの授業実践力向上につなげていく。また、令和4年度からの新規事業「学力向上支援チーム事業」において、本校は基本支援を受けることになった。今後、従来の「学校力UPベース事業」と「課題に応じた教育活動推進事業」、そして新規の「学力向上支援チーム事業」の3つの事業が、本校の学力向上および授業実践力の向上にどのようにかかわっていくかを教育課程・学力向上委員会を中心にデザインしていく必要がある。

- また、各教科等の学習を支える言語能力を計画的系統的に育成する「総合的読解力育成カリキュラム」（令和6年度に完全実施）の今後の実施についても注視していかなければならない。

《体力向上の取り組み》

- 本校は「柔軟性を活かした身体づくり」に力を入れている。柔軟性は筋肉と腱が伸びる能力のこと、競技パフォーマンスの向上に限らず、障害予防や体力向上などにも関係する。本校では「課題に応じた教育活動推進事業」を活用し、平成26年度から令和4年度にわたって、体操競技が専門の講師が継続して配置されている。その専門分野を生かした「柔軟性を活かした身体づくり」の理論や授業実践などは、保健体育科の指導の手本になっている。
- 令和4年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果では、男子は8種目のうち、6種目（前年7種目）が全国平均を上回っていた。特に「上体起こし」ではT得点（全国比）で6.2（前年4.8）ポイント、「反復横跳び」は4.6（前年4.7）ポイントも大きく上回っていた。令和3年度の結果では女子の体力向上が課題となっていた。令和4年度の同調査で、女子は8種目のうち5種目（前年1種目）が全国平均を上回っていた。特に「上体起こし」ではT得点（全国比）で4.4ポイント、「反復横跳び」は3.5ポイントも大きく上回っていた。
- また、令和4年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の生徒質問項目の**Q16. 保健体育の授業で「できなかったことができるようになった」きっかけ、理由はどのようなものがありましたか。当てはまるものを全て選んでください。**という質問に対して、選択項目「1.授業中先生に個別にコツやポイントを教えてもらった」では、全国比で男子は29.7%（前年50.4%）、女子は21.0%（前年54.2%）であった。一方、選択項目「4.先生や友達の真似をしてみた」では、全国比で男子は53.6%（前年46.7%）、女子は47.6%（前年48.9%）であった。令和4年度は選択項目「1」のポイントを下げている。本校では、「課題に応じた教育活動推進事業」で市費常勤講師の配置（保健体育、TTの指導）をしていただき、きめ細かい指導を継続している。令和5年度は、TTによる指導効果を上げ、選択項目「1」のポイントを上げていく。
- 定期的に発行される「給食だより」では食事による健康管理、「ほけんだより」では基本的生活習慣の維持による健康管理を、生徒や保護者に伝えてきた。学校ホームページでは、給食のメニューの紹介だけに終わらず、季節の食べ物の紹介、生産者や調理員の思いを給食時間の校内放送でも伝えた。保健室は、感染症対策を行いながらの体調不良や怪我をした生徒への対応を行い、各種検診も行った。担当者による安定した食育指導や保健指導により、安心して教育活動が行うことができている。

【学びを支える教育環境の充実】

《ＩＣＴの活用と推進》

- 「深い理解」よりも「とりあえずテストで点をとれるテクニックを教えてしまう」傾向が強くなっているのではないだろうか。学習は、わからなかったり、できなかったりしたことが、様々な試行錯誤や他者からのアドバイスにより、わかつたり、できるようになるという主体的な体験をともなう。「わかった」「できた」という体験は「喜び」をともない、その「喜び」がさらに学習を進めていくモチベーションになっていく。後者の傾向が強くなると、モチベーションが失われ、知的好奇心が失われていく。その結果、何とか理解してもらおうと一生懸命説明しても「長い説明はいいからやり方だけ教えて」という残念な反応が返ってくる。いかに「学ぶ喜び」を感じられる授業実践をつくることができるかが鍵となる。
- そのような学びを支援する環境づくりとして、令和4年度はＩＣＴ機器の活用と整備、教職員の長時間勤務の解消を掲げた。学級担任の業務の軽減をはかるために、副担任をはじめとする全職員に業務を分散している。具体的には、朝と帰りの学活、給食指導、学級活動、道徳の授業を担任だけではなく、副担任もふくめて複数で担当することである。これにより業務が減るだけではなく、精神的な余裕がでてくる。私的な用事（育児、介護、通院、旅行、趣味など）で休暇をとることへのハードルも低くなる。肉体的・精神的な余裕は、次への活力となり、好循環を生み出す。教職員には、業務を全員で取り組むことで、職場に好循環が生み出されることを引き続き理解させていく。「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1および基準2を満たす9月の教員の割合はそれぞれ27.12%（前年度同月 34.48%）、52.54%（前年度同月 63.79%）であった。

《働き方改革》

- 教職員の長時間勤務の解消を通じ、教員が子どもたちの前で健康で生き生きと働くことができ、子どもたち一人ひとりに向き合う時間を確保することを目指す。さらには、教科の専門性を生かす、そしてその専門性を伸ばす学びを教員一人ひとりに求め、互いの教育実践を交流できる働きがいのある職場環境をつくっていく。一方、管理作業部、事務部、会計年度職員、サポーターはその教育活動を陰ながら支援していく。
- 本校では仕事の軽減策として、職員朝会の回数削減、職員会議資料のペーパレス化、部活動指導員の活用、学びサポーターによる学習支援、特別支援サポーターによる自立支援、学校支所と学校元気アップ事業による図書館運営、大学（大阪教育大学、大阪成蹊大学など）の学生および大阪市教員養成講座による現場実習を兼ねた学習支援、鶴見区役所による事業の学習支援、欠席連絡アプリの導入、テスト採点システムの導入、修学旅行における看護師の派遣などを行っている。また、学級担任の業務の負担軽減策として、給食指導・学級活動・懇談会・道徳の授業などに副担任が積極的に参加して対応してもらっている。これらの参加により、副担任と学級のつながりが深められる。複数の目で生徒一人ひとりを見ることは、子ども理解を深めることにおいても利点がある。また、学級での複数による指導を通して、中堅教員やベテラン教員と若手教員の教育実践の交流が生まれてくることが期待される。
- 每月実施される学校安全衛生委員会では、職員の健康維持や職場環境の改善について意見交流を行っている。長時間勤務の把握や定期健康診断の結果、ストレスチェックの結果については、産業医の意見をもとに職場環境の改善をはかっている。

- 本校は職員数が多いので、一部の職員に業務が集中することを避けるために、職員全員が自覚して少しずつ業務を引き受け、教育活動を進めていくことを年度初めに確認している。これらの取り組みにより、職員全員に精神的な余裕ができ、長時間勤務の解消につながると考えている。

【安全・安心な教育の推進】

- 令和4年度～令和7年度の年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。
- 令和4年度～令和7年度の年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 令和4年度～令和7年度の年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
- 令和4年度～令和7年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、対応した割合を100%にし、解消した割合を95%以上にする。
- 令和4年度～令和7年度の年度末の校内調査における「学校の規則やきまりを守っていますか」に対して、最も肯定的な「守っている」と回答する割合を生徒は95%以上、保護者は90%以上にする。
- 令和4年度～令和7年度の年度末の校内調査（生徒）における「授業中、勉強する雰囲気ができますか」に対して、最も肯定的な「できている」と回答する割合を90%以上にする。
- 令和4年度～令和7年度の年度末の校内調査（保護者）における「学校は安全対策（防災、事故、熱中症、感染症、疾病、不審者への対応策）に努めていますか」に対して、最も肯定的な「努めている」と回答する割合を90%にする。
- 令和4年度～令和7年度の年度末の校内調査（保護者）において、「学校の様子は学校HPや通信等でよくわかりますか」に対して、最も肯定的な「よくわかる」と回答する割合を90%以上にする。
- 防災・減災教育の計画的・継続的な実施を行い、災害発生時に自ら危険を回避するために、主体的に行動する態度及び安全で安心な社会づくりに貢献する態度の育成を図る。
- 答えがない道徳的な課題を一人ひとりが自分自身の問題ととらえ、向き合う、「考え、議論する道徳」の授業を充実させるための研究を推進する。
- 文化・芸術・音楽に対する知識理解を深め、感性を高めるための機会を年に1回以上つくる。
- 地域連携の取り組みや多様な体験学習により、生徒的好奇心や探求心を育み、魅力ある学校づくりを推進する。
- 特別支援学級の自立支援及び学習支援の環境整備を行う。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和4年度～令和7年度までの年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。
- 令和4年度～令和7年度までの中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 令和4年度～令和7年度までの大阪市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル（英検3級）相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を50%以上にする。

- 令和4年度～令和7年度までの年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を80%以上にする。
- 令和4年度～令和7年度までの全国学力・学習状況調査における「自分でやると決めたことは、やり遂げるようになりますか」「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含みます）」「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます。）」「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する割合をそれぞれ全国平均水準に近づける。
- 令和4年度～令和7年度までの年度末の校内調査（生徒）における「学校の授業はわかりやすいですか」に対して、肯定的な「わかりやすい」と回答する割合を80%以上にする。
- 令和4年度～令和7年度までの年度末の校内調査（生徒）における「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」に対して、肯定的な「取り組んでいる」と回答する割合を80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和4年度～令和7年度までの全国学力・学習状況調査における「1, 2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか」に対して、肯定的に回答する割合をそれぞれ全国平均水準に近づける。
- 令和4年度～令和7年度までの校内研修で、学習用端末を活用した研究授業（オンライン授業をふくむ）を年に1回以上実施する。
- 令和4年度～令和7年度までの年度末の校内調査で、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1と基準2を満たす教員の割合をそれぞれ28%、45%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を95%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、対応した割合を100%にし、解消した割合を95%以上にする。
- 年度末の校内調査において、「学校の規則やきまりを守っていますか」に対して、最も肯定的な「守っている」と回答する割合を生徒は95%以上、保護者は90%以上にする。
- 年度末の校内調査（生徒）における「授業中、勉強する雰囲気ができますか」に対して、最も肯定的な「できている」と回答する割合を90%以上にする。
- 年度末の校内調査（保護者）における「学校は安全対策に努めていますか」に対して、最も肯定的な「努めている」と回答する割合を90%にする。
- 年度末の校内調査（保護者）において、「学校の様子はHPや通信等でよくわかりますか」に対して、最も肯定的な「よくわかる」と回答する割合を90%以上にする。
- 防災・減災教育の計画的・継続的な実施を行い、災害発生時に自ら危険を回避するために、主体的に行動する態度及び安全で安心な社会づくりに貢献する態度の育成を図る。
- 答えがない道徳的な課題を一人ひとりが自分自身の問題ととらえ、向き合う、「考え、議論する道徳」の授業を充実させるための研究を推進する。
- 文化・芸術・音楽に対する知識理解を深め、感性を高めるための機会を年に1回以上つくる。
- 地域連携の取り組みや多様な体験学習により、生徒の好奇心や探求心を育み、魅力ある学校づくりを推進する。
- 特別支援学級の自立支援及び学習支援の環境整備を行う。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を50%以上にする。
- 中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル（英検 3 級）相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を50%以上にする。
- 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を80%以上にする。

学校園の年度目標

- 全学年全教科、総合的な学習の時間、道徳で、学期に 1 回以上話し合い活動を取り入れる。
- 中学校チャレンジテストにおける得点が不平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も令和 3 年度より2 ポイント減少させる。
- 中学校チャレンジテストにおける得点が不平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も令和 3 年度より2 ポイント増加させる。
- 全国学力・学習状況調査における「自分でやると決めたことは、やり遂げるようになりますか」「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含みます）」「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます。）」「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する割合をそれぞれ全国平均水準に近づける。
- 年度末の校内調査における「学校の授業はわかりやすいですか」に対して、肯定的な「わかりやすい」と回答する生徒の割合を87%以上にする。
- 年度末の校内調査（生徒）における「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」に対して、肯定的な「取り組んでいる」と回答する割合を80%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標(中学校)

- 学習用端末を活用した授業を学期に1回以上実施する。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1と基準2を満たす教員の割合をそれぞれ28%、45%以上にする。

学校の年度目標

- 感染症による臨時休業や登校不安、不登校生徒の学びの保障として、自宅でのオンライン学習の環境整備を行い、オンラインでの授業実践の研究を行う。
- 双方向のオンライン学習を年2回実施する。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

【学びを支える教育環境の充実】

評価基準 A：目標を上回って達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった		B：目標どおりに達成した D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
年度目標	達成状況	
【安全・安心な教育の推進】		
<p>全市共通目標（小・中学校）（再掲）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 95 %以上にする。 ● 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 ● 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 <p>学校園の年度目標（再掲）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、対応した割合を 100 %にし、解消した割合を 95 %以上にする。 ● 年度末の校内調査において、「学校の規則やきまりを守っていますか」に対して、最も肯定的な「守っている」と回答する割合を生徒は 95 %以上、保護者は 90 %以上にする。 ● 年度末の校内調査（生徒）における「授業中、勉強する雰囲気ができていますか」に対して、最も肯定的な「できている」と回答する割合を 90 %以上にする。 ● 年度末の校内調査（保護者）における「学校は安全対策（防災、事故、熱中症、感染症、疾病、不審者への対応策）に努めていますか」に対して、最も肯定的な「努めている」と回答する割合を 90 %にする。 ● 年度末の校内調査（保護者）において、「学校の様子は学校HPや通信等でよくわかりますか」に対して、最も肯定的な「よくわかる」と回答する割合を 90 %以上にする。 ● 防災・減災教育の計画的・継続的な実施を行い、災害発生時に自ら危険を回避するために、主体的に行動する態度及び安全で安心な社会づくりに貢献する態度の育成を図る。 ● 答えがない道徳的な課題を一人ひとりが自分自身の問題ととらえ、向き合う、「考え、議論する道徳」の授業を充実させるための研究を推進する。 ● 文化・芸術・音楽に対する知識理解を深め、感性を高めるための機会を年に 1 回以上つくる。 ● 地域連携の取り組みや多様な体験学習により、生徒の好奇心や探求心を育み、魅力ある学校づくりを推進する。 ● 特別支援学級の自立支援及び学習支援の環境整備を行う。 		

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【1、安心・安全な教育環境の実現】 《いじめ対策》〔生活指導部〕 <ul style="list-style-type: none"> ● いじめへの対応については、「大阪市いじめ対策基本方針」に基づき対処する。 ● スクールライフノートの相談申告機能や毎月のいじめアンケートなどを活用して、いじめの早期発見と早期対応、早期解消を行う。 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ● 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を95%以上にする。 ● 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、対応した割合を100%にし、解消した割合を95%以上にする。 ● 年度末の校内調査における「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを探っていますか」に対して、肯定的な「守っている」と回答する生徒の割合を95%以上にする。 ● 年度末の校内調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的な「理解している」と回答する生徒の割合を95%以上にする。 	
取組内容②【1、安心・安全な教育環境の実現】 《不登校対策》〔生活指導部〕 <ul style="list-style-type: none"> ● 別室登校や学習者用端末の活用（オンライン授業や Class room）などにより、登校支援と学習支援を行う。 ● 全教職員で不登校対応を行う。スクールカウンセラーや鶴見区役所こどもサポートネットなどと連携する。 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ● 年度末の校内調査において、令和4年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 ● 年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的な「思っている」と回答する生徒の割合を(75)%以上にする。 	
取組内容③【1、安心・安全な教育環境の実現】 《防災減災教育》〔健康教育部〕 <ul style="list-style-type: none"> ● 学校の実態に合わせた「防災計画」を策定し、防災減災教育を推進する。 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ● 年に2回の避難訓練を行う。 ● 年度末の校内調査（生徒・保護者）における「あなたは家族で、災害の際の避難方法、連絡の取り方について話し合っていますか」に対して、肯定的な「話し合っている」と回答する生徒の割合を(50)%以上にする。 	
取組内容④【2、豊かな心の育成】 《道徳》〔道徳委員会〕 <ul style="list-style-type: none"> ● 答えがない道徳的な課題を一人ひとりが自分自身の問題ととらえ、向き合う、「考え、議論する道徳」の授業を充実させるための研究を推進する。 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ● 年度末の校内調査（生徒）における「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」に対して、肯定的な「取り組んでいます」と回答する割合を80%以上にする。 ● 年度末の校内調査（生徒）における「道徳の授業では、自分と違う意見について考えるのは楽しいですか」に対して、肯定的な「楽しい」と回答する割合を80%以上にする。 	
取組内容⑤【2、豊かな心の育成】 《キャリア教育・2年職場体験》〔教務部〕 <ul style="list-style-type: none"> ● 生徒の実態に合わせた「キャリア教育全体計画」を策定し、キャリア教育を推進する。 ● 職業講話・職場見学・職場体験等、職業に関連したキャリア教育を実施する。 ● キャリアパスポートを適切に活用する。 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ● 年度末の校内調査（生徒）における「将来の夢や目標を持っていますか」に対して、肯定的な「持っています」と回答する割合を65%以上にする。 	

<ul style="list-style-type: none"> ● 年度末の校内調査(生徒)における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的な「思います」と回答する割合を90%以上にする。 ● 年度末の校内調査(生徒)における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的な「思っている」と回答する割合を(75)%以上にする。 	
<p>取組内容⑥【2、豊かな心の育成】《特別支援教育》〔特別支援教育委員会〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 環境整備や支援方法を考慮し、個別対応する。 ● 過剰な支援ではなく、最小限の生徒支援により、卒業後に自立した学校生活を送られるようにする。 ● 自分の良さを知り、自己肯定感を高めさせる。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 連絡帳を使用するなど家庭連絡や保護者・教師間での連携を密にし、生徒の支援体制の改善を図る。 ● 提出物や課題などのサポートを行う。行事や取り組みに積極的に参加し、学校生活で失敗を恐れずに行動させる。 ● 学校評価アンケート(生徒用)において特別支援学級在籍生徒の【自分には良いところがあると思う】の項目について75%以上の肯定的回答回答を目指す。 	
<p>取組内容⑦【2、豊かな心の育成】《芸術鑑賞》《文化祭・合唱》〔教務部〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 芸術鑑賞や合唱等の取り組みを各学年、年1回以上実施する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年度末の校内調査(保護者・生徒)における「文化的行事は充実していますか」に対して、肯定的な「充実している」の回答の割合を80%以上にする。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった		年度目標	達成状況	
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】				
全市共通目標（小・中学校）（再掲）				
<ul style="list-style-type: none"> ● 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 50 %以上にする。 ● 中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。 ● 大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル（英検 3 級）相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 50 %以上にする。 ● 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合を 80 %以上にする。 				
学校園の年度目標（再掲）				
<ul style="list-style-type: none"> ● 全学年全教科、総合的な学習の時間、道徳で、学期に 1 回以上話し合い活動を取り入れる。 ● 中学校チャレンジテストにおける得点が不平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も令和 3 年度より 2 ポイント減少させる。 ● 中学校チャレンジテストにおける得点が不平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も令和 3 年度より 2 ポイント増加させる。 ● 全国学力・学習状況調査における「自分でやると決めたことは、やり遂げるようになりますか」「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含みます）」「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます。）」「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する割合をそれぞれ全国平均水準に近づける。 ● 年度末の校内調査における「学校の授業はわかりやすいですか」に対して、肯定的な「わかりやすい」と回答する生徒の割合を 87 %以上にする。 ● 年度末の校内調査（生徒）における「総合的な学習の時間では、自分で課題を立て情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」に対して、肯定的な「取り組んでいる」と回答する割合を 80 %以上にする。 				

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【4、誰一人取り残さない学力の向上】《国語科》 短歌・俳句・詩・作文等の創作活動により、表現力、書く力を育成する。漢字・語句・文法事項などの反復練習を行い、小テストを実施することで基礎学力の定着、向上を図る。	
指標 自分の意見を発表する機会を増やす。小テストを行い、平均点7割以上を目指す。また、ノートやファイルの点検を年間5回以上行い、学習状況を把握する。	
取組内容②【4、誰一人取り残さない学力の向上】《社会科》 基礎基本の定着を図りつつ、個々の生徒に応じた思考力・資料活用能力を伸長させる。	
指標 定期テストでの各観点別出題で、平均正答率を50%以上にする。	
取組内容③【4、誰一人取り残さない学力の向上】《数学科》 プリントなどで反復練習、振り返り学習を行い、基礎学力の定着を図る。習熟度別、少人数などの分割授業やグループ学習を取り入れ、生徒が主体的に学習し、理解しやすい指導に努める。また、ICT機器の活用をすすめる。	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ● 1単元で1回以上、小テストや練習プリントを行う。 ● 定期テストの間違い直しを行う。 ● 定期テストごとに1回以上ノート点検を行い、家庭学習を含めた指導をする。 	
取組内容④【4、誰一人取り残さない学力の向上】《理科》 科学現象を実際に感じられるよう、できるかぎり多くの実験を行う。学習プリントを用いて、基礎学力の定着、向上をはかる。また、ICT機器を用いて視覚・聴覚に訴えかけるような教材提示を適宜行う。	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ● 提出物の提出率80%以上を目指す。 ● 定期テスト20点未満を全体の10~15%未満を目指す。 	
取組内容⑤【4、誰一人取り残さない学力の向上】《音楽科》 <ul style="list-style-type: none"> ● 基礎・基本の定着を図り、合唱や器楽を通して豊かな感性を育てる。 ● 合唱では、パートリーダーを中心とした活動ができるよう指導する。 ● ICT機器を活用し、興味、関心が持てる教材を精選する。 	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ● 各学期に小テスト、聞き取りテスト、確認テスト・実技テストを行い授業内容の定着を図る。 ● 提出物（プリント・ノート）の提出率を85%以上にする。 	
取組内容⑥【4、誰一人取り残さない学力の向上】《美術科》 ICTを活用し学習の定着を図るとともに、話し合い学習を通じて理解を深めていく。	
指標 <ul style="list-style-type: none"> ● 授業準備を徹底させ、規律ある指導を行う。 ● 学期に1回以上、スケッチブック・ファイルの点検を行い学習状況を把握する。 ● 定期テストを行い授業内容の定着を図る。 	
取組内容⑦【5、健やかな体の育成】《保健体育科》 日々の授業において、集団行動を徹底させ、基本的生活習慣や基礎的な学習態度が定着するように努め、基礎体力の向上を図る。	
指標 新体力テストの学校平均ポイントが、男女とも6項目において全国平均を上回る。	

取組内容⑧【4、誰一人取り残さない学力の向上】《技術家庭科》

製作経験の少ない傾向があるので説明はＩＣＴなどを使用し、イメージしやすくなるよう工夫する。実習は班行動を中心に行い、ともに学びあう授業作りを行う。実習では衛生面や怪我などの安全面に配慮し、基礎的・基本的な技術を身につけさせる。

指標

- 実習の時間を全体の授業時間の70%以上取り入れ、生活に役立てるように授業計画を立てる。
- 実技テストを行い、基礎内容の定着を図る。
- 定期テストで20%未満を全体の10%以下になるよう学習内容の定着を図る。

取組内容⑨【4、誰一人取り残さない学力の向上】《英語科》

- 英語の学習を通して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、言語や文化に対する理解を深める。
- 教授法を工夫し、すべての生徒に基礎的・基本的な内容を身につけさせる。
- 教科書の内容理解を4skills(「読む」「聞く」「話す」「書く」)の4領域の活動を通して行い、英語でのコミュニケーション能力の基礎を養う。

指標

- 各单元に1回以上は既習の単語や文法の小テストを行い、学習内容の確認・定着を図る。
- 「チャレンジテスト」が府の平均以上となるように、また、大阪市英語力調査(GTEC)が市の平均以上となるように、学力向上を目指す。
- 定期テストの20点未満が全体の10%～15%以下になるよう基礎的・基本的な内容についての指導を十分に行う。

取組内容⑩【4、誰一人取り残さない学力の向上】《2年校外学習》《総合》〔教務部〕

- 校内外における体験的な学習の取り組み等を通して、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動を行う。

指標

- 年度末の校内調査(生徒)における「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」に対して、肯定的な「取り組んでいる」と回答する割合を80%以上にする。

取組内容⑪【5、健やかな体の育成】《健康教育・保健室》〔健康教育部〕

- 生徒の実態に合わせた「学校保健計画」を策定し、健康教育を推進する。
- 生徒が規則正しい生活習慣を身に付け、心身ともに健康な学校生活を送ることができる環境の実現をめざす。

指標

- 年度末の校内調査(生徒)における「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」に対して、肯定的な「寝ている」と回答する割合を(80)%以上にする。
- 年度末の校内調査(生徒)における「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対して、肯定的な「起きている」と回答する割合を(90)%以上にする。

取組内容⑫【5、健やかな体の育成】《食育》〔健康教育部〕

- 生徒の実態に合わせた「食に関する指導の全体計画」を策定し、食育を推進する。
- 食育とアレルギー対応の校内研修を年度初めに実施する。

指標

- 年度末の校内調査(生徒)における「給食は残さず(減らさず)に食べていますか」に対して、「食べている」と回答する割合を前年度(55.3%)を上回るようにする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(中学校)(再掲)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学習用端末を活用した授業を学期に 1 回以上実施する。 ● 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 と基準 2 を満たす教員の割合をそれぞれ 28%、45% 以上にする。 <p>学校の年度目標(再掲)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 感染症による臨時休業や登校不安、不登校生徒の学びの保障として、自宅でのオンライン学習の環境整備を行い、オンラインでの授業実践の研究を行う。 ● 双方向のオンライン学習を年 2 回実施する。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】《ICT》〔ICT委員会〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ● オンライン学習の環境整備を行い、オンラインでの授業実践の研究を行う。 ● 校内研修で、学習用端末を活用した研究授業（オンライン授業をふくむ）を行う。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年度末の校内調査（生徒）における「授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか」に対して、肯定的に回答する割合をそれぞれ全国平均水準に近づける。 ● 校内研修で、学習用端末を活用した研究授業（オンライン授業をふくむ）を年に1回以上実施する。 <p>取組内容②【7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】《働き方改革》〔管理職〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学級担任の業務の軽減をはかるために、副担任をはじめとする全職員に業務を分散する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1（基準2）を満たす教員の割合を28%（45%）以上にする。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

令和 5 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立緑中学校 学校協議会

1 総括についての評価

--

年度目標 :

--

年度目標 :

--

•
•
•
•

3 今後の学校園の運営についての意見

--